

分類	作物名(作型等)	品種	化学合成農薬 使用回数 (使用成分×回数)		化学肥料 使用量 (窒素成分量 kg/10a)	堆肥目安量(kg/10a)*				収穫期	備考	
			苗購入の場合			牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり的堆肥			
水稲	水稲	移植	ふさおとめ ひとめぼれ コシヒカリ 本表に記載のない品種等	8	6	4.5	1300	500	300	1700		
			ふさこがね 粒すけ ヒメノモチ ふさのもち 本表に記載のない品種等 (耐倒伏性が「強」以上 のものに限る) <sup>※1</sup>	8	6	5.5						
	湛水直播	ふさおとめ ひとめぼれ コシヒカリ 本表に記載のない品種等	8		4.5							
		ふさこがね 粒すけ ヒメノモチ ふさのもち 本表に記載のない品種等 (耐倒伏性が「強」以上 のものに限る) <sup>※1</sup>	8		5.5							
		ふさおとめ ひとめぼれ コシヒカリ 本表に記載のない品種等	9		4.5							
		乾田直播	ふさこがね 粒すけ ヒメノモチ ふさのもち 本表に記載のない品種等 (耐倒伏性が「強」以上 のものに限る) <sup>※1</sup>	9		5.5						

(※1)産地品種銘柄一覧表【千葉県】掲載の品種のうち、耐倒伏性「強」以上であることが確認できた品種  
いただき、とねのめぐみ、とよめき、にじのきらめき、みつひかり、峰の雪もち(令和8年1月27日時点)  
(農林水産省 品種登録ホームページより)

分類	作物名(作型等)		化学合成農薬 使用回数 (使用成分×回数)		化学肥料 使用量 (窒素成分量 kg/10a)	堆肥目安量(kg/10a)*				収穫期	備考	
			苗購入の場合			牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり的堆肥			
普通 畑作物 等	小麦		5		9	1400	500	300	1800			
	大豆	転換1～2年目	4		3	(500)	(200)	(100)	(600)		転換畑以外の畑作を含む() は堆肥施用があった場合 参考とする	
		転換3年目以降			6	(900)	(400)	(200)	(1200)		()は堆肥施用 があった場合 参考とする	
	落花生	マルチ	2		1.5	500	200	100	600			
	そば	夏播き	2		1	400	100	100	500			
茶	成木園	6		24	-	-	-	-				
野菜	<b>いも・根菜類</b>											
	さつまいも	早掘	5	5	1.5	500	200	100	600	7～8月	化学合成農薬 は苗切り離し以 降の使用回数	
		トンネル	5	5	1.5					7～8月		
		普通	6	6	1.5					9～11月		
	ばれいしょ	マルチ	7		7.5	1600	600	400	2000			
		露地	7		7.5							
	だいこん	春どり	4		7.5	1600	600	400	2000	3～4月		
		初夏どり	6		5					5～6月		
		秋どり	6		1.5	800	300	200	1000	10月		
		冬どり	5		4.5					11～2月		
	はつかだいこん		2		4.5	800	300	200	1000			
	こかぶ	冬どり	3		9	1600	600	400	2000	12～3月		
		春どり	3		13	2300	900	500	3000	4～5月		
		初夏どり	4		6	1600	600	400	2000	6月		
		夏どり	4		1.5	800	300	200	1000	7～9月		
		秋どり	5		6	1600	600	400	2000	10～11月		
	にんじん	トンネル春どり	6		10	1600	600	400	2000			
		秋冬どり	8		7.5							
	ごぼう	秋冬どり	5		11	2300	900	500	3000			
		春夏どり	4		11					6～8月		
	れんこん	普通	2		13.5	-	-	-	-		()は堆肥施用 があった場合 参考とする	
		ハウス	2		13.5	(2300)	(900)	(500)	(3000)			
	さといも	マルチ	5	4	9	1600	600	400	2000			
		トンネル	3	2	7.5						種芋生産を含む	
	やまいも	露地	5	4	9	1600	600	400	2000			
		普通	11	10	10.5	2300	900	500	3000			
	じねんじょ		8	7	16	3100	1200	700	4000			
	根しょうが	マルチ	7		11	2300	900	500	3000			
		ハウス	3		7.5	1600	600	400	2000			
	葉しょうが	トンネル	3		7.5	1600	600	400	2000			
		露地	3		7.5	1600	600	400	2000			
	アビオス	露地	0		2	800	300	200	1000	1～2月		
	<b>葉茎菜類</b>											
	キャベツ	春どり	8	6	14	2300	900	500	3000	4～6月		
		秋どり	8	6	14					10～11月		
		冬どり	8	6						12～3月		
	こまつな	春どり	3		10	1600	600	400	2000	3～5月		
		夏どり	3		5.5					6～9月		
		秋どり	4		10					10～11月		
		冬どり	3		8.5					12～2月		
	ほうれんそう	春どり	3		6	1600	600	400	2000	3～5月		
		夏どり	4							6～9月		
		秋どり	4		10					10～11月		
	しゅんぎく	冬どり	3		12.5	2300	900	500	3000	12～2月		
		秋冬どり	7	6	11.5	2300	900	500	3000	10～4月		
レタス	春どり	6	6	5	800	300	200	1000	4～6月			
	秋どり	7	5	10	1600	600	400	2000	10～11月			
	冬どり	9	7	12	2300	900	500	3000	12～2月			
非結球レタス		9	7	12					3～5月			
非結球レタス		7		12.5	2300	900	500	3000		リーフレタス、 かきちしゃ(サ ンチュウ等)		
エンダイブ	秋冬どり	5	4	12.5	2300	900	500	3000	10～3月			
ねぎ	春どり	15	13	14	2300	900	500	3000	4～5月			
	坊主しらず	13	10	15	2300	900	500	3000	5～6月			
	夏どり	11	10	12	2300	900	500	3000	6～10月			
	秋冬どり	18	16	13	2300	900	500	3000	10～3月			

分類	作物名(作型等)		化学合成農薬 使用回数 (使用成分×回数)		化学肥料 使用量 (窒素成分量 kg/10a)	堆肥目安量(kg/10a)*				収穫期	備考	
			苗購入の場合			牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり的堆肥			
野菜	葉ねぎ	春どり	4		10	1600	600	400	2000	3~5月		
		夏どり	5		9					6~9月		
		秋どり	5		10					10~11月		
		冬どり	4		11					12~2月		
	わけねぎ		14		12	2300	900	500	3000		本ぼ及び定植後に使用するもの	
	たまねぎ	マルチ	8	5	12	2300	900	500	3000			
		露地	5	4	15	2300	900	500	3000	5~6月		
	葉たまねぎ	トンネル	2	2	12	2300	900	500	3000	1~3月		
	らっきょう	マルチ	3		11	2300	900	500	3000	6月		
		露地	3		11	2300	900	500	3000			
	にんにく		5		10.5	2300	900	500	3000			
	にら	ハウス・トンネル	播種または株分けから1年間19(かつ収穫1期につき2)、次の1年間19(かつ収穫1期につき2)		播種または株分けから1年間17(かつ収穫1期につき2)、次の1年間19(かつ収穫1期につき2)	播種または株分けから1年間17.5、次の1年間9	3100	1200	700	4000	11~6月	
		露地夏どり	播種または株分けから1年間14(かつ収穫1期につき2)、次の1年間17(かつ収穫1期につき2)		播種または株分けから1年間11(かつ収穫1期につき2)、次の1年間17(かつ収穫1期につき2)	播種または株分けから1年間17.5、次の1年間9					7~9月	
	みずな	春どり	2		5	800	300	200	1000	3~5月		
		夏どり	3		3.5					6~9月		
		秋どり	2		5					10~11月		
		冬どり	2		6.5					12~2月		
	ルッコラ	春どり	2		6	1600	600	400	2000	3~5月		
		夏どり	3		6					6~9月		
		秋どり	2		10					10~11月		
冬どり		2		10	12~2月							
チンゲンサイ		5		7.5	1600	600	400	2000	周年			
タアサイ		5		7.5	1600	600	400	2000	周年			
からしな	冬どり	2		10	1600	600	400	2000	2~3月			
はくさい	秋冬どり	6	4	13	2300	900	500	3000	11~1月			
べかな	ハウス秋どり	2		3.5	800	300	200	1000				
	露地秋どり	2		7	1600	600	400	2000				
セルリー	ハウス春どり	11	8	25	3900	1500	900	5000	2~3月			
根みつば		2		5	800	300	200	1000	2~4月			
大葉		10		14	2300	900	500	3000				
モロヘイヤ	露地	2		14	2300	900	500	3000	7~9月			
つるむらさき	露地	3		8.5	1600	600	400	2000				
エンサイ	露地	3		4	800	300	200	1000				
茎葉かんしょ		2	2	7	1600	600	400	2000		化学合成農薬は苗切り離し以降の使用回数		
食用なげな	秋冬どり	7		20	3100	1200	700	4000				
ブロッコリー	秋冬どり	6	5	14.5	2300	900	500	3000	10~3月	茎ブロッコリーも含む		
	春どり	6	5	14	2300	900	500	3000	5~6月	茎ブロッコリーも含む		
カリフラワー	秋冬どり	4	3	15	2300	900	500	3000	11~12月			
アスパラガス	半促成(1年目)	16		16	3100	1200	700	4000		定植年の12/31まで		
	半促成(2年目以降)	16		20.5	3900	1500	900	5000		1栽培期間は1/1~12/31		
<b>果菜類</b>												
トマト	促成(長期)	28	26	26	3100	1200	700	4000	10~6月			
	促成(短期)	21	19	18.5	3100	1200	700	4000	10~2月			
	半促成(収穫期2~6月)	17	16	18.5	3100	1200	700	4000	2~6月			
	半促成(収穫期4~7月)	15	14	18.5	3100	1200	700	4000	4~7月			
ミニトマト	抑制	15	14	12	2300	900	500	3000				
	促成	23	21	28.5	3100	1200	700	4000	10~6月			
	半促成	15	13	18.5	3100	1200	700	4000	4~6月			
	抑制	16	14	11	2300	900	500	3000	8~12月			
なす	促成	34	29	32	3900	1500	900	5000	9~6月			
	半促成(短期)	19	17	24	3900	1500	900	5000	2~7月			
	半促成(長期)	20	18	30	3900	1500	900	5000	2~11月			
	トンネル	15	13	23	3900	1500	900	5000	5~8月			
	露地	13	11	17.5	3100	1200	700	4000	6~9月			

分類	作物名(作型等)	化学合成農薬 使用回数 (使用成分×回数)		化学肥料 使用量 (窒素成分量 kg/10a)	堆肥目安量(kg/10a)*				収穫期	備考	
		苗購入の場合			牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり的堆肥			
野菜	ピーマン	促成	27	30.5	3900	1500	900	5000	11~6月		
		半促成(短期)	16	15	18.5	3100	1200	700	4000	4~7月	
		半促成(長期)	27	26	23	3900	1500	900	5000	4~11月	
		抑制(長期)	27	27	31	3900	1500	900	5000	7~4月	
	ししとうがらし	促成	22		23	3900	1500	900	5000	9~6月	
		半促成	13	13	18.5	3100	1200	700	4000	5~10月	苗購入の場合
	きゅうり	露地	8	8	18.5	3100	1200	700	4000	6~9月	苗購入の場合
		促成	37	36	30	4000	1500	900	5100		
		抑制	20	18	13.5	2300	900	500	3000		
		ハウス早熟	20	17	14	2300	900	500	3000		
	かぼちゃ	露地	14	13	16	3100	1200	700	4000	6~8月	
		トンネル	6	5	8	1600	600	400	2000		
	ズッキーニ	露地	6	5	8	1600	600	400	2000		
		抑制	7	6	9	1600	600	400	2000	9~1月	
		半促成	6	6	11.5	2300	900	500	3000	1~5月	
	すいか	ハウス初夏どり	8	8	8.5	1600	600	400	2000	5~8月	
		ハウス半促成	8	6	10.5	2300	900	500	3000	5~6月	
		トンネル	13	11	12.5	1600	600	400	2000	6~7月	
	小玉すいか	ハウス半促成	13	11	5	1600	600	400	2000	8~10月	
		トンネル	8	6	9.5	1600	600	400	2000	5~6月	
		トンネル	14	13	10.5	2300	900	500	3000	6~7月	
	メロン	ハウス半促成	15	14	7	1600	600	400	2000	5~6月	
		トンネル	14	12	8	1600	600	400	2000	6~7月	
	温室メロン	夏どり隔離床栽培	11	9	8.5	1600	600	400	2000	3~8月	
		地床栽培	12	10	6.5						
	しろうり	ハウス半促成	15	15	16	3100	1200	700	4000	5~9月	苗購入の場合
		トンネル・露地	6	6	12	2300	900	500	3000	6~8月	苗購入の場合
	にがうり	ハウス夏どり	9	8	19	3100	1200	700	4000	5~8月	
		露地夏どり	9	8	20.5	3900	1500	900	5000	7~9月	
	食用とうもろこし	ハウス半促成	2		17					5~6月	
		トンネル	3		17	3100	1200	700	4000		
		マルチ			16						
		露地	4		13.5	2300	900	500	3000	7~8月	
	いちご	促成	21	15	18.5	3100	1200	700	4000		化学合成農薬はランナー切り離し以降の使用回数
		ハウス半促成	10	9	12	2300	900	500	3000		
		トンネル	10	9	13.5						
	さやいんげん	抑制	4	3	9.5	1600	600	400	2000		
		トンネル	5	4	7.5	1600	600	400	2000		
		マルチ	5	4	4.5	800	300	200	1000		
	そらまめ	露地	5	4	7	1600	600	400	2000	5月	
ハウス		3	2	2.5							
えだまめ	トンネル	3	2	2.5	800	300	200	1000			
	マルチ	4	3	2.5							
	露地	5	4	3							
さやえんどう	露地	5		4.5	800	300	200	1000			
スナップエンドウ	ハウス	9		15	3100	1200	700	4000	11月~5月		
オクラ		3		11.5	2300	900	500	3000			
果樹	日本なし	清耕栽培	26		10	1200	500	300	1600		
		草生栽培			13	1800	700	400	2300		
	温州みかん		13		13.5	1800	700	400	2300		
	中・晩生かんきつ類		5		15	1800	700	400	2300		
	ゆず		7		8	1200	500	300	1600		
	レモン	露地	5		16.5	2400	900	500	3000		
		施設	7		21.5	2400	900	500	3000		
	びわ	露地	4		13.5	1800	700	400	2300		
		施設	5		8	1200	500	300	1600		
	いちじく		9		8	1200	500	300	1600		
	ぶどう		13		3	600	200	100	800		
	キウイフルーツ		3		10	1200	500	300	1600		
	かき		4		8	1200	500	300	1600		
	くり		3		8	1200	500	300	1600		
	うめ		6		7	1200	500	300	1600		
	ブルーベリー	ポット栽培以外	3		4.5	-	-	-	-	6~9月	
ポット栽培		3		0.0288	-	-	-	-	5~7月	化学肥料使用量は「g/ℓ」	
ラズベリー	ポット栽培以外	3		6	-	-	-	-			
	ポット栽培	3		0.045	-	-	-	-		化学肥料使用量は「g/ℓ」	

(注1) 算出根拠

- ① 堆肥目安量: 上限ではなく、使用の目安。(根拠は別紙のとおり)
- ② 化学合成農薬使用回数: 「環境にやさしい農業」推進に係る企画検討会議技術部会で定めた延べ成分使用回数の1/2
- ③ 化学肥料使用量: 「環境にやさしい農業」推進に係る企画検討会議技術部会で定めた窒素施肥量の1/2

(注2) 収穫期が基準月を越えて前後月にまたがる場合は、1ヶ月未満に限り認める

(別表－１－１別紙) 堆肥の目安量の根拠

堆肥の目安量は、環境保全及び農作物生育の面から、各作物の基肥窒素量（施肥基準に示されている量）の30%を堆肥の有効窒素成分量で代替する施用量である。

想定した堆肥は表1のとおりであり、堆肥の有効窒素成分量は以下の式で算出できる。

$$\text{堆肥の有効窒素成分量 (kg/10a)} = \text{堆肥施用量 (kg/10a)} \times \text{窒素全量 (現物\%)} \times \text{窒素肥効率}^*(\%)$$

※窒素肥効率とは、家畜ふん堆肥に含まれる窒素の肥料としての効果を化学肥料窒素と比較した指数で、化学肥料と同等ならば100%、化学肥料の半分ならば50%である。

表1 堆肥の目安量で想定した堆肥の窒素全量と窒素肥効率

種類	水分 (%)	窒素全量 (現物%)	窒素肥効率 <sup>3)</sup> (%)
牛ふん堆肥 <sup>1)</sup>	50.7	1.14	18
豚ふん堆肥 <sup>1)</sup>	40.7	2.05	26
鶏ふん堆肥 <sup>1)</sup>	29.4	1.91	46
土づくり的堆肥 <sup>2)</sup>	50.0	1.00	16

注1) 各種家畜ふん堆肥の水分及び窒素全量は「家畜ふん堆肥利用促進ナビゲーションシステム」における県内流通堆肥の平均値。

2) 土づくり堆肥の成分は、施肥基準の土づくりの効果の高い堆肥の定義（現物当たり窒素全量1%以下）に基づいたものであり、副資材入り牛ふん堆肥を想定したものである。

3) 窒素肥効率は千葉県施肥設計支援システム「エコFIT」による。

化学肥料使用量（窒素成分量）水準別の堆肥の目安量は表2のとおりである。

ただし、以下の作物（作型）については、農作物の栄養生理等を考慮した目安量である。

トマト（促成）、ミニトマト（促成）、きゅうり（促成）、なす（促成、半促成（2～11月収穫）、ピーマン（促成）

表2 化学肥料使用量に対応した堆肥の目安量 (kg/10a)

区分	化学肥料使用量 (窒素成分量 kg/10a)	牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	鶏ふん堆肥	土づくり的堆肥
水稻	4.5	1,300	500	300	1,700
畑作物	1.0	400	100	100	500
	1.5～3.0	500	200	100	600
	3.5～6.0	900	400	200	1,200
	6.5～10.0	1,400	500	300	1,800
野菜	1.5～5.0	800	300	200	1,000
	5.5～10.0	1,600	600	400	2,000
	10.5～15.0	2,300	900	500	3,000
	15.5～20.0	3,100	1,200	700	4,000
	20.5～25.0	3,900	1,500	900	5,000
果樹	1.5～5.0	600	200	100	800
	5.5～10.0	1,200	500	300	1,600
	10.5～15.0	1,800	700	400	2,300
	15.5～20.0	2,400	900	500	3,000

(別表-1-2) 養液栽培「化学合成農薬の使用基準(上限)」

H27.4.1 改正

分類	品 目 数	作物名(作型等)		作 型 数	化学合成農薬 使用回数 (使用成分×回数)		収穫期	備考
						苗購入の場合		
野菜	1	養液栽培みつば		1	2	2	周年	
	2	養液栽培葉ねぎ		2	3		周年	
	3	養液栽培非結球レタス		3	5	2	周年	サラダ菜を含む
	4	養液栽培ほうれんそう		4	1	1	周年	
	5	養液栽培クレソン		5	3	2	周年	
	6	養液栽培トマト	促成(長期)	6	28	26	10~6月	
			促成(短期)	7	21	19	10~2月	
			半促成(収穫期 2~6月)	8	17	16	2~6月	
			半促成(収穫期 4~7月)	9	15	14	4~7月	
			抑制	10	15	14		
	7	養液栽培ミニトマト	促成	11	23	21	10~6月	
半促成			12	15	13	4~6月		
抑制			13	16	14	8~12月		
8	養液栽培ピーマン	促成	14	27		11~6月		
		半促成	15	27	26	4~11月		
9	養液栽培セルリー		16	7	6			
10	養液栽培いちご	促成	17	21	15		化学合成農薬 はランナー切り 離し以降の使用 回数	
果樹	11	養液栽培ブルーベリー	バックカルチャー	18	3		置肥しないこと	

(注1) 算出根拠

①化学合成農薬使用回数:「環境にやさしい農業」推進に係る企画検討会議技術部会で定めた延べ成分使用回数の1/2

(別表-1-3)  
**特用林産物（たけのこ）「化学合成農薬及び化学肥料の使用基準（上限）」**

分類	品 目 数	作物名（作型等）	作 型 数	化学合成農薬 使用回数 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素分量 kg/10a)	収穫期	備考
	1	たけのこ (もうそう竹)	1	0	17	12～5月	竹林の適正な密度をたもつため、親竹を年1回以上、伐竹すること。

(注1) 算出根拠

- ①化学合成農薬使用回数:使用しない。
- ②化学肥料使用量:「環境にやさしい農業」推進に係る企画検討会議技術部会で定めた窒素施肥量の1/2

## (別表－2)

## 化学合成農薬に含めない農薬

R7.1.7

## 1. 有機JAS規格附属書Bに準ずるもの

農薬(注1)	備考
除虫菊乳剤	除虫菊から抽出したものであって、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含まないものに限ること。
ピレトリン乳剤	除虫菊から抽出したものであって、共力剤としてピペロニルブトキサイドを含まないものに限ること。
なたね油乳剤	
調合油乳剤	
マシン油エアゾル	
マシン油乳剤	
デンプン水和剤	
脂肪酸グリセリド乳剤	
メタアルデヒド粒剤	捕虫器に使用する場合に限ること。
メタアルデヒド剤	捕虫器に使用する場合に限ること。
硫黄くん煙剤	
硫黄粉剤	
水和硫黄剤	
石灰硫黄合剤	
シイタケ菌糸体抽出物液剤	
炭酸水素ナトリウム水溶剤	
銅水和剤	
銅粉剤	
硫酸銅	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
生石灰	ボルドー剤調製用を使用する場合に限ること。
天敵等生物農薬	(別表－2附表に掲げる農薬のとおり。)
性フェロモン剤	農作物を害する昆虫のフェロモン作用を有する物質を有効成分とするものに限ること。
混合生薬抽出物液剤	
展着剤	(注2)
二酸化炭素くん蒸剤	保管施設で使用する場合に限ること。
燐酸第二鉄粒剤	
炭酸水素カリウム水溶剤	銅水和剤の薬害防止に使用する場合に限ること。
ミルベメクチン乳剤	

農薬(注1)	備考
ミルベメクチン水和剤	
スピノサド水和剤	
スピノサド粒剤	
還元澱粉糖化物液剤	
カスガマイシン液剤	
カスガマイシン粉剤	
カスガマイシン水溶剤	
カスガマイシン粒剤	
エチレン	パイナップルの開花誘発に使用する場合に限ること。
次亜塩素酸水	
重曹	
食酢	
その他農薬(注3)	有効成分としてこの表の他の農薬に含まれる有効成分のみを2つ以上含有するものに限ること。

注1:組換えDNA技術を用いて製造されていないものに限る。

注2:要領本文第4の3(1)ウただし書の規定により、展着剤の使用は、その有効成分に関わらず化学合成農薬の使用回数に含めないものとする。

注3:硫黄・銅水和剤、炭酸水素ナトリウム・銅水和剤、脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤等が該当する。

## 2. 上記1以外の農薬

「ポリオキシン複合体」を有効成分とする農薬
デンブン液剤
天敵(注4)

注4:農薬取締法第2条第1項の規定に基づき、平成15年3月4日農林水産省・環境省告示第一号で定められる特定防除資材のうち天敵。(例:テントロール)

(別表－ 2 附表)

天敵等生物農薬

「有機農産物及び有機加工食品のJAS規格のQ&A(令和6年7月、農林水産省新事業・食品産業部食品製造課 他)」において「天敵等生物農薬」に該当するものとされた農薬

BT水和剤(生菌、死菌を問わない)	アカメガシワクダアザミウマ剤
アリガタシマアザミウマ剤	イサエアヒメコバチ・ハモグリコマユバチ剤
イサエアヒメコバチ剤	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤
オンシツツヤコバチ剤	キイカブリダニ剤
ギフアブラバチ剤	ククメリスカブリダニ剤
コニオチリウム ミニタンス水和剤	コレマンアブラバチ剤
サバクツヤコバチ剤	シュードモナス フルオレッセンス剤
シュードモナス ロデシア水和剤	スタイナーネマ カーポカブサエ剤
スタイナーネマ グラセライ剤	ズッキーニ黄斑モザイクウイルス弱毒株水溶剤
スワルスキーカブリダニ剤	タイリクヒメハナカメムシ剤
タラロマイセス フラバス水和剤	チチュウカイツヤコバチ剤
チャハマキ顆粒病ウイルス・リンゴコカクモンハマキ顆粒病ウイルス水和剤	
チャバラアブラコバチ剤	チリカブリダニ・ミヤコカブリダニ剤
トリコデルマ アトロビリデ水和剤	ナミテントウ剤
バーティシリウム レカニ水和剤	パスツーリア ペネトランス水和剤
ハスモンヨトウ核多角体病ウイルス水和剤	バチルス アミロリクエファシエンス水和剤
バチルス シンプレクス水和剤	バチルス ズブチリス水和剤
ハモグリミドリヒメコバチ剤	バリオボラックス パラドクス水和剤
ヒメカメノコテントウ剤	ペキロマイセス テヌイペス乳剤
ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	ボーベリア バシアーナ剤
ボーベリア バシアーナ水和剤	ボーベリア バシアーナ乳剤
ボーベリア ブロンニアティ剤	ミヤコカブリダニ剤
メタリジウム アニソプリエ粒剤	ヤマトクサカゲロウ剤
ラクトバチルス プランタラム水和剤	リモニカスカブリダニ剤

(別表－3) 申請書等の様式及び提出時期等

区分	様式	提出時期等
(要綱第3の2関係) 指定申請書	様式1	第1次 4月10日まで(栽培開始5月以降) 第2次 7月10日まで(栽培開始8月以降) 第3次 10月10日まで(栽培開始11月以降) 第4次 1月10日まで(栽培開始2月以降) なお、永年性作物は、認証を受けようとする年の前年の収穫終了月を栽培開始月とする。
(要綱第3の4関係) 指定通知	様式2	—
(要綱第3の5関係) 指定要件欠格届出書	様式3	指定要件を欠く事態が生じた場合速やかに
(要綱第4の3の関係) 栽培計画書の提出	様式4	第1次 4月10日まで(栽培開始5月以降) 第2次 7月10日まで(栽培開始8月以降) 第3次 10月10日まで(栽培開始11月以降) 第4次 1月10日まで(栽培開始2月以降) なお、永年性作物は、認証を受けようとする年の前年の収穫終了月を栽培開始月とする。
(要綱第4の6関係) 計画変更申請書	様式5	変更がある品目の栽培開始前(第1次～第4次の各期限)
(要綱第4の4、6関係) 計画登録通知書	様式6	—
(要綱第4の5関係) 計画中止届出書	様式7	栽培を中止することが明らかとなった場合速やかに
(要綱第4の7関係) 農産物認証申請	様式8	収穫開始の3週間前まで
(要綱第4の9関係) 認証通知	様式9	—
(要綱第4の11(4)関係) 認証欠格届	様式12	認証要件を欠く変更が生じた場合速やかに
(要綱第5関係) 指定取消通知 認証取消通知	様式13 様式14	— —
(要綱第6の1関係) 乾燥調製等登録認定申請書	様式15	乾燥調製等開始月の前月の10日まで
(要綱第6の2関係) 乾燥調製等登録認定通知	様式16	—
(要綱第6の6関係) 乾燥調製等登録実績報告書	様式17	乾燥調製等終了後速やかに
(要綱第7関係) 乾燥調製等登録認定取消通知	様式18	—
(要綱第4の11(2)関係) 乾燥調製等記録様式	参考様式	生産者等において、米は3年、その他の品目は1年保管

注1 指定申請書及び栽培計画書の提出時期は、上記に掲げる年4次のほか、栽培開始前の限りに  
おいて、農業事務所により追加設定できるものとする。

注2 要綱第4の3なお書により栽培計画書の提出と併せて認証申請を行った「もっと安心農産物」  
生産組織については、収穫開始の3週間前までに、栽培管理記録簿を提出すること。

注3 様式10、11は欠番